



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 FAX 045-571-3834

年頭のご挨拶

横浜スペイン協会 会長 下山利明

2018 年の新しい年を迎え、皆様方のご多幸を心からお祈り致します。

一昨年 5 月より、3 代目会長の任を引き継いでから早いもので 1 年 7 ヶ月経過しました。協会の活動は年を追うごとに活性化し、多くの時間を割くようになりました。昨年、特に強く印象に残るイベントは 2 つでした。1 つ目は、4 月に日本国天皇皇后陛下のお招きで国賓として来日された、スペイン国国王陛下謁見の儀に参列の機会を頂き、直々にフェリペ 6 世国王とご対面してお話出来た事です。2 つ目は、9 月に第 5 回さくら植樹と友好親善のためにレオン県ビエルソ郡を訪問した事です。3 ヶ所の植樹、町役場と小学校の 2 ヶ所での日本文化の紹介を通して現地の方々と草の根の交流が出来たことはとても有意義な経験でした。その他、スペイン語クラス関係では、複数の特別講座と新たに入門者向けの「アサレア」クラスも創設して多くの方にスペイン語を学んで頂けるよう充実させました。スペイン・サロンでは専門家の先生をお招きし、興味深い歴史・文化講座を開催し、毎回好評を得ています。現在、会員は約 100 名と、この数年変化はないのですがホームページを見て当協会に興味を持たれて入会される方が増えていることは喜ばしい事です。さて、本年は「日本スペイン外交関係樹立 150 周年」の年。当協会はスペインに深い関心を持つ同志が集い、会員相互の親睦をはかりつつ、スペイン文化の普及と友好関係の向上に貢献する事が基本方針です。この方針にのっとり皆様と楽しみながら、充実した活動を進めて参りたいと考えております。引き続き会員の皆様方の各イベントへの積極的な参加とご協力をお願い申し上げます。

2018 年 横浜スペイン協会 活動計画

	総務・企画	スペイン語教室	スペイン・サロン	スペインサークル	会報
1 月		新聞クラス公開講座		*旅でスペインを識ろう会 毎月第 2 月曜日 (8 月はお休み)	新年号
2 月	新年親睦パーティー (2/4)				
3 月	市民活動フェア 2018 参加	クラス委員会	スペイン美術講座		
4 月	大使館観桜会 (予定)	前期講座 開始	シェリー講座	* スペイン語でボランティア (CLUB 2020) 毎月第 1 火曜日 分科会第 3 火曜日	春号
5 月	定時総会 (5/12)				
6 月					
7 月		クラス委員会・新聞特講	サルスエラ講座	* “ORIGAMI” 毎月第 3 水曜日	夏号
8 月		夏期特別講義			
9 月					
10 月	National Day 式典	後期講座 開始	スペイン文学講座		秋号
11 月			スペイン料理教室		
12 月					

●スペイン語クラス

10月から吉田彩子清泉女子大学名誉教授による特別講座第1部「ドン・キホーテ」を読むための基礎知識（全6回）が始まりました。講座は毎月第3金曜日13:00～14:30 講義は日本語で行われています。（第2部「ドン・キホーテ」を楽しく読み解くは2018年4月から開講します。）

特別講座『ドン・キホーテ』を読むための基礎知識に参加して

10月から6回に亘り開かれている講座に2回参加しましたが、期待通り今まで聞くことのできなかった話が満載でとても勉強になります。講師の吉田彩子先生は、清泉女子大学の名誉教授で17年間『ドン・キホーテ』の講義をされたことから、お話に出てくる場所の写真、絵画、地図などさまざまなものを映像で示されるのでとても実感がわきます。11月の第2回「セルバンテスの生涯と作品」の講義では、セルバンテスがアルカラ・デ・エナレスで生まれたとする根拠となった洗礼証明書の写真を示されながら、それがどうやら偽造らしいこと。また、セルバンテスが生まれた年や結婚した年についても疑惑があり、セルバンテスについては数多くの謎があることも始めて知りました。スペイン語を習い始めてから一度は読んでみたい小説が『ドン・キホーテ』でしたが、一人で読むには難解で躊躇していました。今回の講座に続いて来年4月から開かれる第二部「『ドン・キホーテ』を楽しく読み解く」が楽しみです。（ヒラソルクラス・岩田岳久）



<お知らせ>「新聞・雑誌をスペイン語で読むクラス」特別公開講座 どなたでも参加できます！
テーマ：15世紀のベストセラー小説「ラ・セレスティーナ」

この本の歴史と普及、そしてラ・セレスティーナのストーリーについて

講師：ビクトル・カルデロン神奈川大学准教授

（講義はスペイン語で行われますが栗山講師が訳していただきます。）

日時：2018年1月27日（土） 10:15～11:45

場所：万国橋会議センター4F 404号室（横浜市中区海岸通り4-23）

参加費：1,500円（会場でお支払い願います。）

お申込み締め切り日：2018年1月13日

お申込み先：e-mail：aiyes.supeingo.kurasu@gmail.com



*スペイン語クラスは現在10クラスと他に「スペイン語でボランティア」を目指すサークル「CLUB2020」を開講しております。クラスやサークルにご興味のある方は上記e-mailにお問い合わせください。

●スペイン・サロン

<スペイン料理を作って食べる会>

2017.12.3 於技能文化会館

「スペイン料理を作って食べる会」に一昨年と今回参加しました。メニューは、ガスパチュエロ、紫キャベツとリンゴのソテー、バレンシア風パエリア、ロスコス・デ・ヴィノの4種類を約2時間の作業でした。私が是非この会に参加したかったのは、スペイン料理大好きは勿論ですが、講師の丸山久美先生の軽妙なトークとお



人柄が魅力でもあったからです。私の班は女性3名、男性1名でしたが、彼のリーダーシップ溢れる結束の下、アッと云う間に素晴らしいお料理4種が出来上がりました。特にガスパチュエロに使用した手作りマヨネーズは上出来で、先生のお褒めにあずかり更にテンションがあがりました。そのあとの試食会ではワインやシェリー酒で乾杯を重ねながらお料理のでき映えを讃え合い、美味しく頂き、楽しいひと時を過ごしました。大変な下準備をして下さった委員の方々に深く感謝しつつ、お腹満腹心ホッコリと帰路につきました。（落合恵子）

<お知らせ> 次回のスペイン・サロン

日時 : 2018年3月10日(土) 14:00~16:00
場所 : かながわ県民センター 304号室
演題 : 「ベラスケスと絵画の栄光」展記念講演
『“画家たちの画家”ベラスケス—静かなる絵画革命』
演者 : 早稲田大学名誉教授 大高保二郎
参加費 : 1,000円

●旅でスペインを識ろう会

「夏のバスク：ビルバオ、サンセバスチャン他」 2017.10.16 於かながわ県民センター

10月16日の午後、雨のしょぼしょぼ降る中、岩田加奈子さんをお迎えして、「バスク」のお話を聞きました。参加者には「Bilbao, San Sebastián」等の地図も配られましたが、同じものが映像で壁に映し出され、行き先を地図上で示しながら、丁寧な説明をされましたので、とても分かりやすかったと思います。小生は「バスク」と聞くと、「美味しい物」をすぐに連想しますが、「ピンチョス」を始めたのはこの「バスク」だそうで、とくに強調もされませんでした。時どき映し出される画面には美味しそうなものが顔を出し、「ゴクン」と唾を飲み込んだものでした。多くの古い建物に混ざって、近代的な建物も数多く紹介され、更には海岸も、お祭りもと、なかなか暮らしても良さそうな楽しい所と言う印象を受けました。岩田さんはフランクフルトからビルバオに入られたようですが、和やかな雰囲気の中で楽しく過ごされたようです。岩田さんが特に強調されたことは、バスクは「安全」という事でした。皆さん、一度はいらしてみても如何ですか？（廣瀬勝亮）

「女三人 Castilla y Leon 州を訪ねて」 2017.11.17 於かながわ県民センター

今回の旅の会は、大竹智栄子さん、古賀恵子さん、平本紀子さんの熟女3人の5月末から6月下旬にかけての話です。旅の前半は、各自の行動をなさり、後半10日間は3人一緒に行動されました。☆大竹さんはサラマンカを中心に、イサベル1世に味方した伯爵の名からきているシェード・ロドリゴ、絵画の様な街並みのアルベルカ、肖像画のモガラス、古い家が特徴的なカンデラリ



オ、記念碑的価値の景色のミランダ・デル・カンタニャール、イサベルが貴族の邸宅を焼き払ったプラセンシア。☆平本さんと合流、イサベル1世生誕地のマドリガル・デ・ラス・アルタス・トーレス、王母イサベルの滞在したアレバロ。☆古賀さんは、マラガのカルメン先生宅で2週間スペイン語レッスンを受けていました。その後マドリッドで全員集合。セゴビア、アビラ、エスコリアル、セルバンテス列車でアルカラ・デ・エナレス、トレドなどを、観光されました。スペインの歴史、文化、文学とあらゆるものを体験なさり、とても意義ある旅だったと思いました。（佐藤順子）

●シネマサロン

「笑う故郷」 El Ciudadano Ilustre

監督 Gastón Duprat, Mariano Cohn 2016年アルゼンチン・スペイン映画

バルセローナ在住の架空の作家ダニエルがノーベル賞を受賞。その授賞式のスピーチで「受賞は自分の作品が権威の意に沿うもので、作家としての衰退のしるしである」という。列席者たちの暗く戸惑う表情がこのストーリーの不気味な展開を予想させる。マスコミなどの取材を全部拒否し、ただ一つ出身地アルゼンチン・サラスからの招待に乗り気になる。今も閑散としたこの町で思春期まで過ごした記憶をもとに、想像と創造の世界としてこの町を彼の作品に登場させているらしい。名誉市民として迎えられた彼は講演会や行事に参加し旧友との再会も楽しむ。彼の小説をほめる人、寄付をねだる者、彼の小説の一字一句を挙げて熱い視線で迫る若い女性、書いた小説を読んでみってくれと差し出すホテルのフロントの青年、また「ヨーロッパ文化に跪くピエロだ」と罵倒する者も現れ、町は騒然となる。旧友や初恋の人の家族と揉め事も発生し、彼の身に危険が迫る。空港へと逃げる途中で撃たれるが、命は助かったらしい。最後の場面では、鎖骨あたりの傷跡を示しながら鋭く文化や権威を批判している。彼らの人間模様はおかしく、悲しく、想像以上に生々しかった。「カズオ・イングロ」とその出身地・長崎の場合ではどうでしょう？（松本益代）



***** 協会からのお知らせ *****

毎年恒例の「新年親睦パーティー」の開催日時と場所のお知らせです。今年もパワフルで、魅惑的な音楽を楽しんでいただき、昨年大変に好評だった吹き矢のゲーム大会で再び熱い戦いを繰り広げ、すべての皆様が楽しんでいただける趣向を用意いたしました。ぜひ会員の皆様の出席をお待ちしております。参加ご希望の方は詳しくは今号同封のチラシをご覧ください。

*日時 2月4日(日) 12:30～ *会場 KKR ポートヒル横浜（港の見える丘公園隣）
お申込み&お問い合わせ：Tel: 090-6655-3946（武菱） taketake-27@song.ocn.ne.jp

***** 新会員紹介 *****

山本 紀子 (Noriko Yamamoto) 横浜市神奈川区在住 2017年10月入会

中学生の頃からスペイン語に興味がありました。ラテンミュージックもとても好きです。10月より入門クラスをスタートさせました。英語と同じくらいスペイン語も話せるようになったらヒスパニック系の子供たちに勉強を教えたいという夢があります。協会のイベントに参加し、スペインの歴史、文化に触れ、スペインを愛する方との交流を深めて参りたいと思います。よろしくお願いします。

《編集後記》 戊年です。鳴き声、日本ではワンワン。ググてみるとスペインでは jaujau とか guaugau。どんな鳴き声に聞こえてるのでしょうか？やっぱり日本人とは耳が違うみたいですね。（A. S）

編集長 / 下山綾子

編集委員 / 臼井慎一 古賀恵子 下山利明 武菱邦夫 服部君江 福長昭代

*投稿寄稿宛先
横浜スペイン協会

E-mail : info@yokohama-spain.jp
ホームページ : <http://www.yokohama-spain.jp/>

次回の原稿締切は

3月15日(木)です